

令和3年度 林業普及週間現地情報 (2/7～2/10)

森林管理課

宮古林業研究会の開催（勉強会及び40年生イヌマキ林調査）

2月7日（月）

令和4年2月7日に宮古林業研究会（会員：県、宮古島市、宮古森林組合、多良間村、宮古木工芸）を開催し、立木払い下げに関する勉強会及び宮古島市上野にあるイヌマキの40年生造林地（市有林）の標準地調査を実施した（多良間村は勉強会のみリモート参加）。

勉強会では、これまで宮古島市、宮古森林組合と勉強会を進めてきた立木評価の考え方の整理を会員に対しても行い、宮古の造林地を伐採したと仮定した場合のシミュレーション等を行った。また、勉強会後の調査を経て、より宮古の実情に合わせていくことを確認した。そのほか、宮古木工芸から、独自に沖縄本島で行った木工関係の調査について報告があった。

勉強会后、移動し、40年生イヌマキ林の標準地調査を行った。調査箇所は、昭和50年代後半に当時の上野村が造林したイヌマキの単層林で、まとまったイヌマキが残っている。約0.8haの造林地内に10m×10mの標準地（プロット）を作って、その内部のイヌマキの①樹高、②胸高直径、③採材長（木材利用が可能な通直部の長さ）を計測した。イヌマキ林に関する各種調査研究を参考に、宮古の標準的なイヌマキ林の材積量について推定を行い、立木評価の要素として取り入れていく予定である。

今回の林業研究会で、標準地調査を初めて行う会員もおり、林業に関する知識向上が図られた。林業普及指導員としても、今回の勉強会で得た知識や調査結果をもとに、今後の普及指導を進めていきたい。



勉強会の様子



調査の様子

（報告者：宮古農林水産振興センター 古井、合田）